

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回(6年1月判断)	今回(6年4月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

(注)6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械で一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響から持ち直しの動きに一服感がみられる一方、生産用機械で持ち直しの兆しがみられるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(6年1月判断)	今回(6年4月判断)	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5年度は減少見込み	5年度は減少見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が拡大	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は化粧品などその他の商品が好調であるものの、衣料品等が低調となっており、前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売はカウンター商品等が堅調となっており、前年を上回っている。一方、販売点数や来店客数の伸びに落ち着きがみられる。ドラッグストア販売は飲食料品や医薬品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は季節商品等が伸び悩んでおり、前年を下回っている。家電大型専門店販売はパソコンやテレビが低調となっており、前年を下回っている。乗用車販売は一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により、前年を下回っている。旅行は国内旅行が緩やかに回復しつつある。このように、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 普段の買物では節約し、ハレの日は豪華にといったメリハリ消費の傾向が強くなっている。(スーパー)
- 3月に入ってからからの気温の低下や降雪により春物衣料の動きが鈍化した。衣料品は、冬が暖かく春が寒いなど気候に振り回された。(百貨店)
- 来店誘因策として実施している各フェアの効果により、売上げ・客数は何とか前年を上回っている状況。ただし、目的買いが顕著にみられ購買点数は減少している。(コンビニエンスストア)
- 物価高の進展により値段に敏感になっているが、特に飲食料品については競合店よりも安く販売していることから買い控えはみられない。(ドラッグストア)
- 少子化、人口減少に加え、テレビを必要としない若者が増加しており、新生活需要は前年と比較して低調。(家電量販店)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により販売台数は大幅に減少しているものの、東北地方において車は必需品であり需要は底堅い。(業界団体)
- 国内個人旅行は、コロナ禍前までには戻っていないが、3月に入り春休みの予約が急増するなど、旅行需要は底堅いと感じている。(旅行代理店)
- 宿泊はインバウンドを中心に好調となっているほか、宴会は会食を伴う学校関係の謝恩会や同級会が開催されるなど、コロナ禍前の動きが戻ってきている。(宿泊)
- 3月の送別会シーズンには、企業からの予約が戻ってきたほか、年末年始と同様に2次会の客足も途絶えず、コロナ禍前に匹敵する賑わいがみられた。4月に入っても予約は順調。(飲食)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

電子部品・デバイスは中国経済の減速の影響がみられるものの、自動車向けが堅調なほか、スマートフォン向けなどは在庫調整が進んでいる。輸送機械は一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響から、持ち直しの動きに一服感がみられる。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要に底打ち感があり、持ち直しの兆しがみられる。このように、生産活動は、一進一退の状況にある。

- 車載部品は中国の電気自動車(EV)向けで伸び悩んでいるものの、米国向けは比較的順調で、車載部品全体では増加している。(電子部品・デバイス)
- スマートフォンやパソコン向けの受注は、在庫調整の一巡に伴い今四半期末を底に4月以降徐々に回復に向かうと見込んでいる。データセンター向けは、足下で受注が増加している。(電子部品・デバイス)
- 半導体不足の解消に伴い12月までは生産量が増加傾向にあったが、一部自動車メーカーの生産停止の影響から数%の受注減少となっている。ただし、自動車需要は底堅く、一時的な低下とみている。(輸送機械)
- 半導体メーカーの在庫調整がひと段落したことで、製造装置への投資も回復局面に入りつつある。(生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっており、企業の人手不足感は引き続き高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 人手不足により、受入れを制限している旅館があるほか、部屋食からバイキングに切り替えた旅館もある。(観光協会)
- 賃上げ原資を確保するため新規求人抑制し、既存従業員の待遇改善を優先する企業が増えてきている。(公的機関)
- 中小零細企業の廃業等により事業主都合離職者数が増加している。(公的機関)

- 設備投資 「5年度は減少見込み」(全産業)「法人企業景気予測調査」6年1-3月期
 - 製造業では、情報通信機械等で増加見込みとなっているものの、食料品、輸送用機械等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。
 - 非製造業では、金融・保険等で増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道、小売等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。

- 前年度実施した工場建設の反動により減少する見込みとなっている。(食料品)
- 前年度と比較して新規出店が落ち着いたため、今年度は減少する見込みとなっている。(小売)

- 企業収益 「5年度は減益見込み」(全産業)「法人企業景気予測調査」6年1-3月期
 - 製造業では、輸送用機械等で増益見込みとなっているものの、情報通信機械、非鉄金属等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、農林水産で赤字転化見込みとなっているものの、小売等で増益見込み、運輸・郵便で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

- 企業の景況感 「『下降』超幅が拡大」(全産業)「法人企業景気予測調査」6年1-3月期
 - 現状(6年1~3月期)は「下降」超幅が拡大している。先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

- 住宅建設 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を下回っている。

- 分譲戸建も価格上昇で販売が低迷しているため、在庫戸数が増加しており、積極的に着工しづらい状況にある。(建設)

- 公共事業 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、国、独立行政法人などで前年度を下回っており、全体でも前年度を下回っている。

- 消費者物価 「前年を上回っている」

- 金融 「貸出金残高は、前年を上回っている」

- 企業倒産 「件数、負債総額とも前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(6年1月判断)	今回(6年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつあり、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は乗用車販売減少の影響等がみられるものの、持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は乗用車販売減少の影響等がみられるものの、緩やかに持ち直しており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は有効求人倍率は高水準を維持しているものの、足踏みの状況にある。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。